令和５年度 学校だより １月号

なかお

第４５２号
令和６年１月１０日
発行者　横浜市立中尾小学校
校　長　廣瀬　ユミ
https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakao/

転換期

校　長　廣瀬　ユミ

冬休みも終わり新しい年が始まりました。今年は元旦から災害や事故が続き、今までとは全く違う年明けになりました。関係する方々のお気持ちを想像すると本当に心が痛みます。いつもでしたら、今年の抱負を語り合い、明るい気持ちでスタートを切る私ですが、全くそんな気持ちにはなれませんでした。しかし、昨日登校してきた子どもたちの姿を見た時、学校は常に明るい雰囲気を作り、子どもたちが安心して学べる場にしなくてはと思い、気持ちを切り替えました。新年最初の朝会では、この悲しい出来事を自分事として受け止め、自分たちができること、考えたことを大事にしてほしいという思いを子どもたちに伝えました。１年生から6年生まで真剣に話を聞いていました。その姿はとても頼もしく、私は目の前にいる子どもたちにこれからの時代を託したいという思いでいっぱいになりました。今年は辰年です。辰年についていろいろ調べてみると、運気が上がる、幸福をもたらすとありました。また、見方を変え、新しいことにチャレンジするのに適した年でもあるそうです。子どもたちや保護者の皆様そして、地域やボランティアの方々と共に希望をもち、さらに素敵な中尾小学校を作って参りたいと思いますので、今年もご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

この年末年始いつも通り私は実家に戻り、母や父、親戚と一緒に過ごしました。年末は必死になって年賀状を書きながらその傍らでおせち料理を母と作りました。年賀状は、相手への感謝と自分の近況を伝えるものですが、通信手段が変わり紙ベースではなく、インターネット上で瞬時に気持ちを伝えることができるようになったことで、ずいぶん書く枚数が減りました。今まで相手のことを考えながら丁寧に書くものと教えられてきましたが、大事にしなければいけないことは相手に自分の思いをきちんと伝えることであり、手段はどんな形でもよいのかもしれないと感じました。

お正月はおせち料理を食べながら、これまであった出来事やこれからどんな生活を送っていきたいかなど語り合いました。おせち料理を食べる時はそのものの由来を話し、感謝やお願いをしながら食べました。お節料理はそれぞれにいわれがあるので欠かさず作るようにしていましたが、とても時間がかかるため、年末に作り続けていくものと買って済ませるものについて母と真剣に話し合いました。なぜ真剣な話になったかというと、これからも作る料理には私に引き継いでほしいという母の願いが込められていたからです。話し合った結果、私がこれから作り続けるものは田作りと伊達巻になりました。子どもの頃は、おせち料理を食べ終わると「羽根つき」「かるた」「コマ回し」「福笑い」「凧あげ」「百人一首」をやり、遊びを通して様々なことを学んだものですが、今では場所などの関係もありやる機会が減りました。むしろ、人と話をする時間の方が増えたかもしれません。経験豊富な年上の方の話を聞くと安心したり、気持ちがすっきりしたり、勇気をもらったりします。今年は自分にとって様々な意味で転換期を迎えたように感じました。

学校では１月に入るとこれまでの教育活動の振り返りや学校行事の見直しなどを行い、子どもたちにとっても教職員にとっても楽しくなるような来年度の教育プランを立てていきます。学校の特色を大事にしたうえで良いものは残し、必要なことは取り入れながら、教育活動の内容や方法を変えていくことになります。教職員一同今年も保護者の皆様や、地域の方々、ボランティアの方々に支えていただきながら、子どもたちのためになることを見極め、しっかりとした目標をもち、達成に向けて努力していきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。